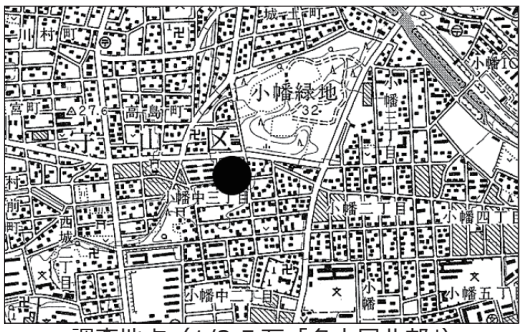
牛牧（うしまき）遺跡

所 在 地　名古屋市守山区大字牛牧・高島町・小幡中３丁目
調査理由　県営守山住宅建て替えに伴う事前調査
調査期間　平成 11 年６月～ 11 月
調査面積　1,000 ㎡
担 当 者　北村和宏・魚住英史・川添和暁



調査地点（1/2.5 万「名古屋北部」）

調査の経過　本年度の調査は県営守山住宅建て替えに伴う事前調査として、愛知県土木部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けたものである。調査面積 1,000 ㎡をＡ・Ｂの２調査区に分けて、平成 11 年６月から 11 月にかけて調査が実施された（第１図）。

立地と環境　牛牧遺跡は、名古屋市の北東部、名古屋市守山区大字牛牧・高島町・小幡中３丁目周辺に所在している。本遺跡は、庄内川と矢田川とに挟まれた熱田台地相当の守山面上にあり、庄内川に向って広がる台地縁辺部に位置している。1950 年代末に守山市教育委員会が行った第一・二次調査と、1961 年に名古屋市教育委員会が行った第三次調査によって、縄文時代晩期の土器棺墓群・平地式住居などが検出され、縄文時代晩期の遺跡として周知となっていた。

調査の概要　調査の結果、牛牧遺跡は縄文時代晩期・弥生時代中期・古墳時代中期・中世から戦国期にかけての４時期に分けられる。その中でも縄文時代晩期の遺構数・遺物数が圧倒的に多く、この時期が遺跡の中心の時期であったと考えられる。基本層序は上から、表土および礫層（住宅建設による）・灰褐色粘土質シルト層（旧耕作土　約 20 ㎝）・黒色土（縄文時代晩期の遺物包含層　約 30 ㎝）・茶褐色土（約 10 ㎝）・明黄褐色礫層（守山面）である。

縄文時代晩期　縄文時代晩期の遺構としては、土器棺墓群・住居跡・ピット・土坑が検出された（第２図）。今回の調査成果でも中心となるのは、土器棺墓群である（第３図、写真１～８）。土器棺墓は、Ａ区で 24 基、Ｂ区で 17 基の計 41 基が検出された。検出時には旧耕作土直下にて上部が露出している例が多く、遺構自体に何かしらの破損を受けているものがほとんどである。41 基のうち、合せ口の例は２例のみであり、他の 39 基は単棺であった。単棺の土器棺では他の土器片にて蓋がなされているものも数例見られる。棺身は立位に置かれた１例を除いて、ほとんどが横位である。棺に使用された土器は、表面調整が条痕もしくはナデ・削りのみの粗製深鉢がほとんどであるものの、ＳＺ 34・41・44 のような例も検出された。土器棺墓が営まれた時期はその土器型式から、晩期前葉の元刈谷式期から晩期後葉の突帯文期まで継続して営まれたと考えられる。

住居跡としてはＳＢ 05 １軒のみが検出された。ＳＢ 05 は、２ｍ×３ｍほどの小型の竪穴式住居であり、楕円形プランを呈している。住居内床面の広い範囲で被熱した痕跡が見られた（写真 13）。その他の遺構に関しては、石剣・磨製石斧・敲石・砥石が一括して納められていた土坑や、打製石斧・磨製石斧が納められていたピット（写真 12）が注目される。

遺物も縄文時代に属するものの割合が高い。出土遺物は、土器・土製品・石器・石製品である。土器は、深鉢・浅鉢・台付鉢・注口土器などの器種がみられる。晩期初頭に属するものから

みられるが、一部後期にさかのぼる可能性もある。土製品は、土偶･土製耳飾りが出土した。石器は、石鏃・石錐・スクレイパー・磨製石斧・打製石斧・石錘・磨石・敲石・砥石などが出土した。点数では石鏃が最も多く、石材は下呂石の割合がとても高い。石製品は、石棒･独鈷石・垂飾などが出土している。

弥生時代　弥生時代中期の遺構としては、竪穴式住居が１軒検出された（ＳＢ 02)。床面から多くの炭化材が検出され、また弥生時代中期中葉と思われる壷が出土している。

古墳時代　古墳時代の遺構に関しては、竪穴状の遺構が２基検出された（ＳＢ 01・ＳＸ 03)。ＳＢ 01 は縄文土器を出す炉址があることから、縄文時代の住居跡に重複してつくられた可能性がある。また、ＳＸ 03 は、一辺 10 ｍほどの方形プランのなかに、幅１ｍほどの溝状の浅い落ち込みが検出されている。そのなかに、６世紀前葉の高杯・坏・器台といった須恵器が出土した。特に器台は、装飾付き器台であり、形状に特徴があり注目される。

中世以降　中世以降の遺構に関しては、柵列が一列検出された。

ま と め　今回の調査の成果は、以下の通りである。

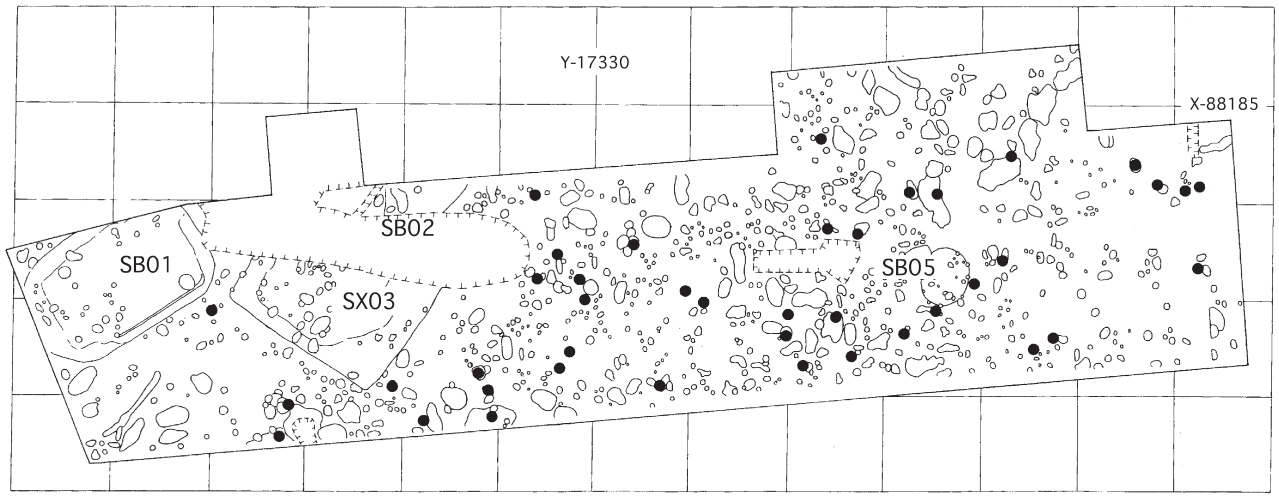
縄文時代晩期の土器棺墓群がまとまって発見されたことである。発見数は、尾張地域においては最多となり、縄文時代晩期の葬制の研究に良好な資料を提示した。

また、竪穴住居跡・土坑群・ピット群など、集落に関わる多くの遺構が検出された。当時の中心的な集落として、牛牧遺跡を検討することが可能である。

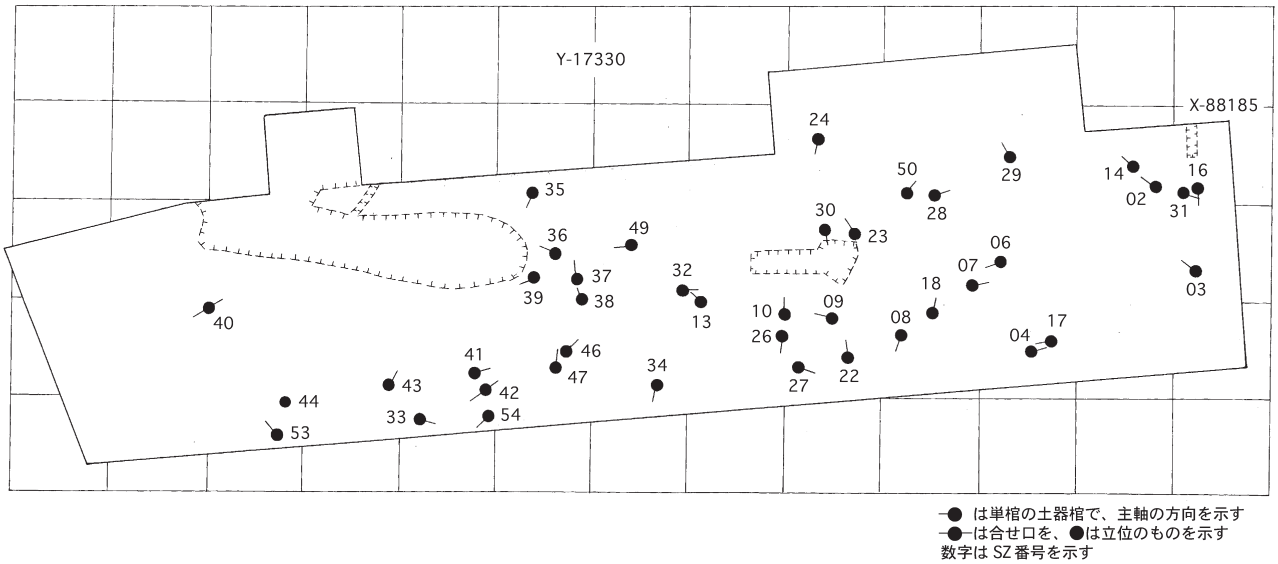
遺物も、縄文時代晩期初頭から後葉までのものが豊富に出土している。土器・石器のみならず、土偶や・石棒をはじめ、当時の精神文化に関わる遺物も出土している。また土器や土偶などに赤色顔料が施されているなど、注目すべき遺物が多い。

また縄文時代のみならず、弥生時代・古墳時代の遺構・遺物も検出された。特に、古墳時代の装飾付器台は注目される遺物である。　（魚住英史・川添和暁）

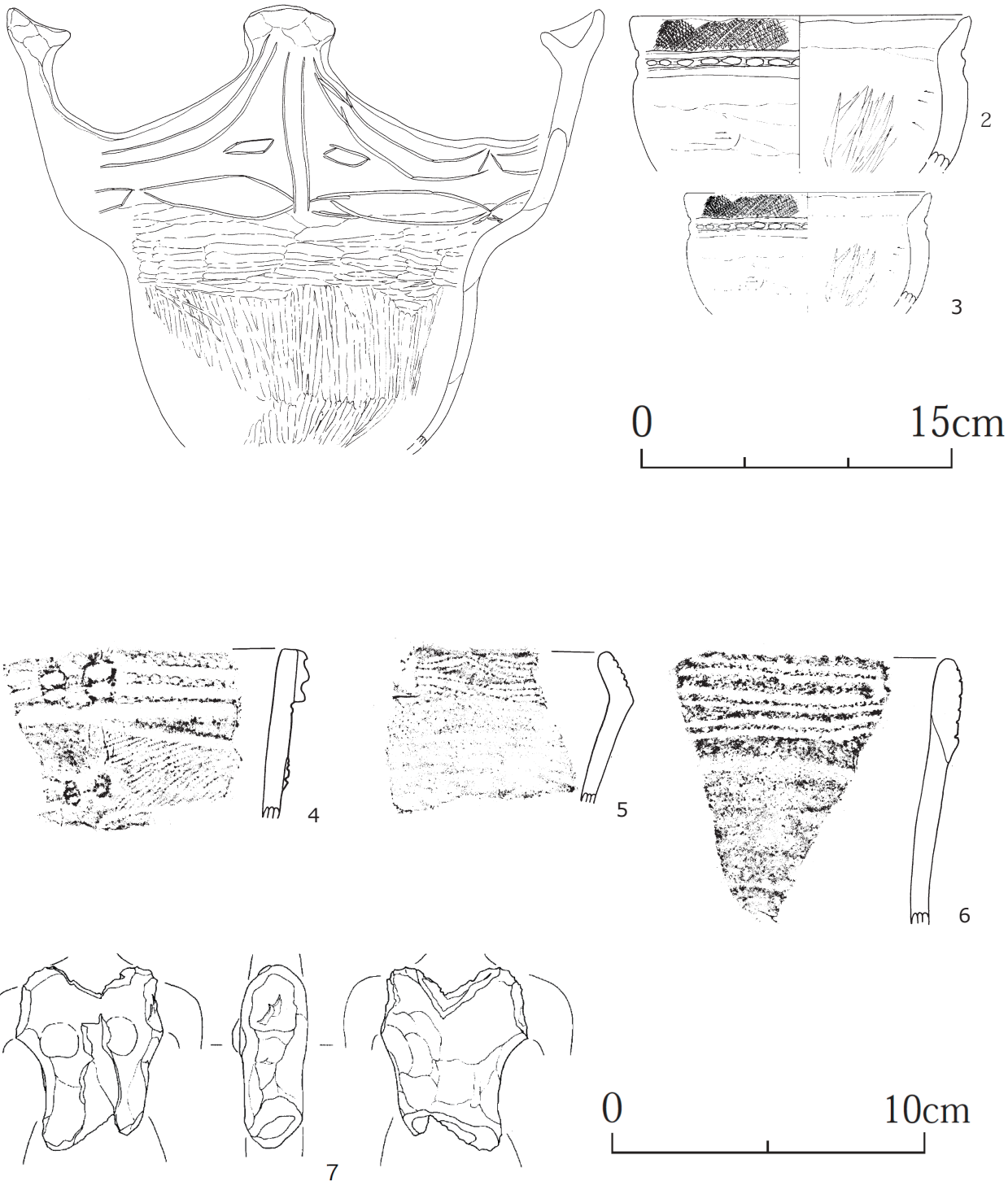
第１図　調査区配置図（１：1,000）



第２図　　下面遺構配置図（１：400）



第３図　土器棺配置図（１：400）



第４図　出土遺物実測図

（１～３は縮尺１：２、４～７は同１：３）

写真１．ＳＺ 04 出土状況（東より）

写真２．ＳＺ 13 出土状況（南より）

写真３．ＳＺ 24 出土状況（北より）

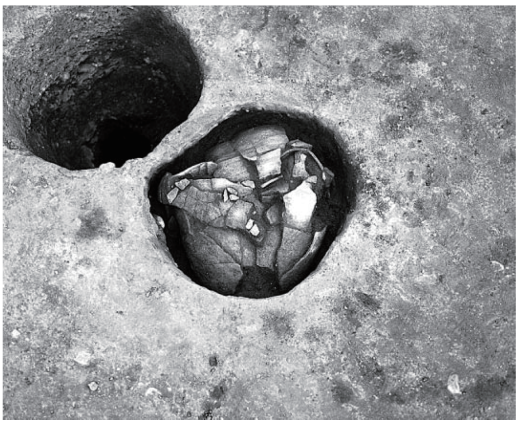


写真４．ＳＺ 27 出土状況（東より）

写真５．ＳＺ 34 出土状況（北より）

写真６．ＳＺ 41 出土状況（西より）

写真７．ＳＺ 40 出土状況（南東より）

写真８．ＳＺ 42 出土状況（南より）

写真９．土偶出土状況

写真 10．石棒出土状況

写真 11．注口土器出土状況

写真 12．Ｐ 475 遺物出土状況（打製石斧･磨製石斧）

写真 13．ＳＢ 05（南より）

写真 14．装飾付器台出土状況（北西より）